

独自署名 地域どんだん

長野・戦争反対の高森連絡会

9/9 系誌

長野県高森町の「戦争反対の高森連絡会」は7日、戦争法案廃案を求める署名が、町内21地区ごとの常会（地区の集まり）加入世帯3263世帯の過半数に達したことを記者会見で明らかにしました。

高森町は以前から、平和憲法を大前提にした平和の町づくりの取り組みを進めてきました。

「高森9条の会」が5月、町内15団体に呼びかけ、町議会に戦争法案廃案の請願を共同提出しましたが、議会の多数を握る保守系議員によって否決されました。共産党議員団は、7割以上の世帯に配布している「高森民報」で問題を明らかにする宣伝を展開しました。

16団体は新たに「戦争反対の高森連絡会」を立ち上げ、日本を「戦争する国」にする戦争法案に反対し廃案を求める独自署名を作って、7月から署名活動を始めました。呼びかけ人は270人以上に上りました。

署名用紙は各世帯に1枚ずつの割合で配られ、大いに歓迎されました。家族1人以上の名前が記された署名用紙が次々に集約され、国会の衆参議長あてに送り届けられていきました。署名活動スタートから2カ月後の今月初め、署名はついに、常会加入世帯の半数を超えました。

高森9条の会会長の久保田昌幸さんは「これは一つの到達点。ここを乗り越えることが本当のたたかいと言えます」と、廃案に向けて目標の9割署名に向けた決意を力強く語りました。

首相地元 会場ぱんぱん

山口・長門 講演会に600人

安倍首相の祖父・寛氏や父・晋太郎氏らの墓がある山口県長門市油谷（ゆや）で5日、小林節慶応大名譽教授が戦争法案を語る講演会が開かれました。住職やクリスチャンなど市民8氏による「憲法学者・小林節さんのお話を聞く会」の主催。主催者の予想を倍以上も上回る約600人が参加し、会場は立ち見も出ました。

主催者の一人、木岡靖司さん(70)が「あまり縁のなかった8人が、戦争のない世の中を目指したいという共通の願いに結束した」とあいさつしました。

講演に先立ち、安倍家の墓を訪れたという小林氏は「戦時体制下で戦争に反対した寛さんを尊敬する」と切り出し、「安保法案を論争するのは、晋三首相個人を好き嫌いという問題ではなく、国民全体の運命にかかわるからだ」と指摘。「憲法9条のもと、専守防衛で70年間戦争しないできたことは世界の宝だ」と訴え、大きな拍手が送られました。